



こう げん びょう

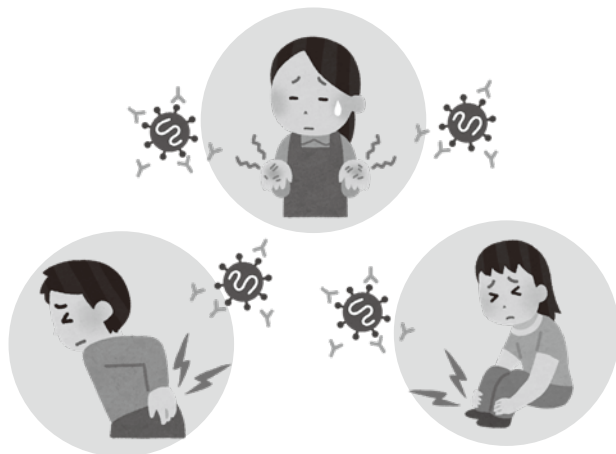
膠原病ってどんな病気？

膠原病とはどんな病気かご存知ですか。初めて聞く方や、聞いたことはあってもどんな病気かよくわからない方が多いのではないのでしょうか。



膠原病とはひとつの病気を指す言葉ではなく、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症など「免疫」に関連するいくつかの病気の総称です。

膠原病の症状は関節の痛みやこわばり、皮膚の紅斑や紫斑、レイノー現象（指先が冷えたときに真っ白になる）、体重減少、筋力の低下、全身の倦怠感などがありますが、体中のどこにでも症状が現れる可能性があります。その理由には「免疫」がかかわっています。



国保京丹波町病院 水曜日の内科一般外来
和知診療所 月、火曜日の内科一般外来 担当
きた で こう たろう
北出 浩太郎 医師



ヒトの体は自分自身と、菌やウイルスといった異物の違いを認識することができ、この異物を排除する機能のことを「免疫」と言います。まれに、この免疫にエラーが起きて自分自身を異物として認識して排除しようとしてしまうことがあります。こうした反応を「自己免疫反応」と言います。自己免疫反応により全身に症状が出る病気のことを総称して「膠原病」と呼びます。免疫は体のどこにでも備わっている仕組みなので、免疫にエラーが生じる膠原病では、体のどこにでも症状が出る可能性があります。

膠原病は早く発見して治療することで通常の生活を送ることができるようになってきていますが、まれな病気であり、また症状も他の病気と似ているため、発見が遅くなることも少なくありません。診断のためには血液検査などで免疫について詳しく検査する必要があります。気になる症状があるときは医師に相談して検査を受けてみてください。